

## 第8回 記者懇談会実施要項

- 1 開催日時 平成9年7月24日（木）  
午後3時から
- 2 場 所 100周年記念会館第2会議室
- 3 懇談内容
  - (1) 若手研究者の研究テーマとその成果の中間発表（15時～15時30分）
    - 文学部教授 高橋隆博  
研究テーマ「アジアから日本を考える」
    - 工学部専任講師 青田浩幸  
研究テーマ「太陽光エネルギーを効率よく電気および化学エネルギーに変換するための分子素子の開発」
  - (2) 学内情報（15時30分～16時）
  - (3) 情報交換（16時～16時30分）
- 4 関西大学の出席者
  - 石川 啓 学長
  - 月岡利男 広報委員長
  - 鈴木俊光 教学部長代理
  - 山下一美 情報処理センター所長
  - 東村高良 情報処理センター所長代理
  - 高橋隆博 文学部教授
  - 青田浩幸 工学部専任講師
  - 岩村 護 企画室長
  - 荒木紀忠 広報課長
- 5 配布資料
  - ① 記者懇談会実施要項
  - ② 高橋隆博教授の発表資料
  - ③ 青田浩幸専任講師の発表資料
  - ④ 関西大学学術フロンティア・センターの概要
  - ⑤ 関西大学ジョイント・サテライト事業の概要
  - ⑥ エクステンション・リードセンター「司法試験対策講座」実施概要
  - ⑦ 女子学生対象「ON CAMPUS RECRUITING」開催要項
  - ⑧ 関西大学出版部発行『対訳・百人一首』
  - ⑨ 『関西大学通信』第254号・255号・256号

以上

## アジアから日本を考える

関西大学文学部教授 高橋 隆博

ここ数年、韓国や中国をはじめとして、ベトナム・タイ・ラオス・ミャンマー・インド・ブータンなどの東南アジア諸国を調査におとずれている。目的は「アジアの漆掻きの現状と漆芸技法の研究」にあった。結論的にいえば、漆芸技法の「ありよう」はそう大差なくアジアはまさに「一衣帯水の関係」にあることを痛感した。今回は、調査そのものの報告より、東南アジアの諸国が抱えているさまざまな問題を考えてみたい。たとえばベトナムの北部の丘陵地には東アジアには元来植生しない「ユウカリ」の木が植えられている。3年前には1本も存在しなかったのにである。タイ南部の海岸地域はマングローブが伐採され、エビの養殖田となっている。タイ政府は経済発展の裏側におきている自然破壊・環境破壊によりやけに重い腰をあげようとしている。「ユウカリ」と「エビ」は日本とどのように関わっているというのか。アジアを歩いてきた「歴史の眼」で考えてみたい。



たかはし たかひろ  
高橋 隆博

教授

1967年に本学日本史を卒業、71年大学院修士課程修了。奈良県立美術館総括学芸員、帝塚山短期大学助教授を経て、89年4月来任された。専門は日本中世史、とくに木工漆工の産業史、技術史であるが、広い視野を持ち、古代から近現代にわたって各種の論考が多い。本学には末永雅雄先生にあこがれて入学した。

横田健一先生の指導のもとに古代・中世史を専攻。奈良県立美術館の創設時から学芸員として長年勤務し、全国各地を走りまわった。その間、『延喜式』を基にした本格的な木漆器の新研究などで注目をあび、漆工芸史の分野では第一人者としての定評がある。大冊『高麗・李朝の螺鈿』（毎日新聞社）は、朝鮮半島の漆芸史を初めて開拓した画期的な書として名高い。88年に『韓国美術と史跡の旅』（創元社）の好著を刊行。純朴な人柄で、人情家。山形生まれだけにソバにはいささかうるさい。92年10月より2年間文学部学生主任をされた。

# 太陽光エネルギーを効率よく電気および化学エネルギーに

## 変換するための分子素子の開発

関西大学工学部専任講師 青田 浩幸

太陽光エネルギーを効率よく電気および化学エネルギーに変換し利用することは、エネルギー問題を解決する上で重要である。我々は無機物であるシリコン系の太陽電池とは異なり、有機分子（高分子）による光-電気・光-化学エネルギー変換素子の開発を行っている。現時点ではエネルギー変換素子としての機能については検討できていないが、その前段階として次のような特徴のある高分子の合成に成功したので報告する。

- (1)エネルギーバンドギャップが  $0.5\text{eV}$  以下である：この値は現在報告されている世界最高値の一つである。
- (2)水溶性である：一般に  $\pi$ -共役系高分子は溶解性を上げるために置換基を導入するとその共役性は悪くなるが、この高分子では共役性は非常に高い。また、水溶性であること自体珍しい。
- (3)高分子鎖が分子導線(molecular wire)の役割をする：分子内で遠距離での光誘起電子移動反応が起こることが蛍光消光実験で示唆された。
- (4)合成が非常に容易である：市販の試薬を用いて一段階で合成できる。

### プロフィール

昭和 37 年 3 月生まれ (35 才)

昭和 60 年 3 月 大阪大学 理学部 高分子学科 卒業

平成 4 年 3 月 大阪大学大学院 理学研究科 高分子学専攻  
博士後期課程 単位取得 退学

平成 5 年 3 月 同課程 修了 大阪大学 博士 (理学)  
博士論文タイトル

Syntheses of New Polymers Containing Metalloporphyrins and Their Physicochemical Behavior

(金属ポルフィリンを有する新規高分子の合成とその物理化学的挙動)

指導教授 大阪大学 理学部 蒲池幹治 (現 高分子学会会長)

平成 4 年 4 月 関西大学 工学部 応用化学科 助手

平成 7 年 4 月 同専任講師



あおた ひろゆき  
青田 浩幸  
専任講師